

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. D-110

部門名： 校内研修プログラム	エントリー名： 筑西市立下館中学校 大島健 平成 30 年度第 4 回中堅教員研修
活動名： 若手教員を育てる職員研修 ～ ベテラン教員と語り合う希望者研修 ～	
解決すべき課題： 若手教員に、教員としての基礎的なスキルを身に付けさせたい。 <p>本校は、毎年新規採用教員が 2 人ずつ入ってきている状況にあり、非常に若手の多い職員構成となっている。平成 30 年度は、職員数 35 名のところ、20 代が 13 名、30 代前半が 6 名と、34 歳以下の職員が全体の 50% を超えていた。学年によっては、5 クラス中 4 クラスの担任が 20 代ということもあり、互いにポイントを押さえきれないまま指導に当たっていることも少なくない。</p> <p>そこで、中央研修で学んだ「リフレーミング」、「授業の進め方」等を含めた希望者研修を企画・実践し、若手教員に教員としての基礎的なスキルを身に付けさせ、より効果的な指導を行ってほしいと考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リフレーミング・・・このスキルが若手教員に身に付くことにより、教員と生徒一人一人との関係が良好なものになり、様々な指導がより浸透するようになりたい。 ・授業の進め方・・・生徒一人一人や学習集団としての意識を改善することで、支持的風土を築き上げていくことの重要性を伝える。また、「学び取る」学習スタイルの在り方について考えられるようにしたい。 	
目標・方針： 若手教員が、授業やその他の時間に、自信をもって生徒たちに関われるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ・全体で行う職員研修とは別に、希望者だけが参加する「希望者研修」を企画する。 ・演習を基本とし、和やかな雰囲気の中で研修が進むようコーディネートする。 ・様々な年代の先生と意見交換することで、若手教員が多様な考えに触れられるようにする。 ・今、悩んでいることについても発言してよいことを伝え、その改善や教員のメンタルヘルスにも資する。 	
活動内容： 希望者だけが参加する希望者研修（いくつかを例示） <ul style="list-style-type: none"> ・リフレーミングの演習 ・授業の進め方①「支持的風土をもつ学習集団の形成」演習 ・授業の進め方②「『学び取る』学習スタイルの一事例」演習 	
活動の成果： 「生徒にプラス思考で関われるようになった」、「聞く態度を重要視するようになった」等の声が聞かれ、全国学力・学習状況調査の生徒質問紙においてもよい結果が見られた。 <p>「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか?」「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか?」等の質問において、全国平均よりも高い結果が見られた（右にグラフあり）。</p>	
アピールポイント（アイデアや工夫）： <ul style="list-style-type: none"> ・毎回ではないが、部活のない日に短縮日課をつくり、研修の時間を確保できるようにした。 ・構成的グループエンカウンターエクササイズ等を用いてアイスブレイクし、それから研修に入ることで、より和やかな雰囲気が進められるようにした。アイスブレイクの方法を若手教員が学ぶ機会にもなった。 ・研修の中心となる演習では、若手教員だけでなくベテラン教員やミドル教員にも実演してもらう機会を設けることで、若手教員が多様な考え方や実践に触れられるようにした。 	

【リフレーミングの演習】



写真 1：ペアでの演習

【授業の進め方の演習】



写真 2：聞き方指導の演習



写真 3：「学び取る」学習スタイルの演習

◆進め方

① リフレーミングの説明 ②デモンストレーション ③演習（ペア→グループ）

◆研修の様子

「テストでよい点数がとれないことを悩む生徒にどんな言葉をかけるか?」という状況を想定して進めた。若手教員は、ベテラン教員やミドル教員の言葉のかけ方に感銘を受けていた。一方で、若手教員の言葉のかけ方に「私もそうだったよ」と共感したり、「そういうのいいね」と認めたりするベテラン教員やミドル教員の姿もあった。

◆参加者の声

「先輩の先生方は、やっぱり言葉のかけ方がうまい。」「生徒の役をやってみて、認めてもらう言葉の嬉しさを感じた。」「他の学年の先生方とも距離が縮み、これからももっと話してみたいと思った。」

◆進め方（研修を 2 回に分けた）

第 1 回・・・支持的風土をもつ学習集団の形成（聞き方指導の演習）

①よい聞き方をさせるための先生の言葉かけ演習（小グループ）

② " " (全体)

③実演した先生のおさらいのシェアリング

第 2 回・・・「学び取る」学習スタイルの一事例（「出前学習」の演習）

「出前学習とは、グループで話し合ったことを他グループに伝えることでアウトプットの機会を増やし、思考・判断・表現力を高める学習方法である。」

先生役、生徒役に分かれて模擬授業を行う中で①②③を実践

①自力解決 ②グループでの話し合い ③他グループに出前しての話し合い

◆研修の様子

第 1 回は、「授業中、生徒がざわついている時にどんな言葉をかけるか?」という状況を想定して演習を行った。小グループでは、全員が先生役になって実演した。全体では、グループの代表者が実演した。真面目に諭す先生、冗談で生徒を引きつける先生、黙って生徒に気付かせる先生など様々であった。

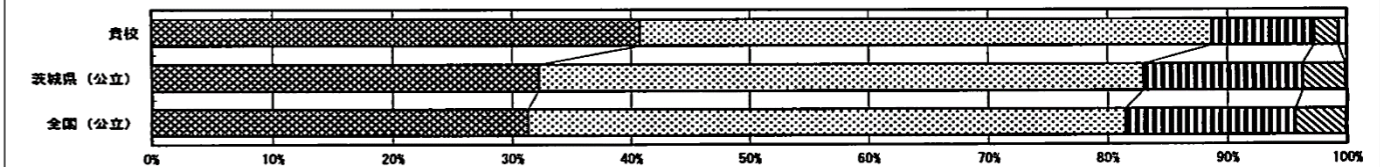
第 2 回は、数学の模擬授業の中で「出前学習」の演習を行った。自力解決を無言で行うことで、できる生徒に頼ることができないメリットやデメリットを感じたり、他グループに出前で発表しに行くことで緊張感が生まれ、グループでの話し合いに必要感が生まれるということを感じたりしていた。

◆参加者の声

「聞く態度がなっていないまま話していることが多いので、授業中だけでなく、朝の会や帰りの会などでも気をつけていきたい。」「聞ける集団をつくることの重要性を感じた。」「誰が話しに行くか分からないので、数学が苦手な私は他の人の話をよく聞かなきゃと思った。」「発表しながら、自分の考えが明確になっていくことを感じた。」

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか?」

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか?」

□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答

